

<筑波大学附属病院・婦人周産期グループで行われている介入を伴わない後方視的観察研究>

患者様へ

このコーナーには当診療グループで行われている多施設共同の「介入を伴わない後方視的観察研究」が列挙されています。「介入を伴わない後方視的観察研究」とは、既に治療が行われた患者様の診療内容についてカルテ(診療録)から調査し、カルテに記載されている範囲内で分かる最新の患者様の健康状態などと照らし合わせて、これまで行われた治療の問題点を探り出し、その解決法を研究し、新しい治療体系を構築するなどの研究を行うものです。当診療グループで行われるこのような観察研究では、患者様の個人情報解析する場合には匿名化を行っており、ご氏名やご住所など個人を特定できる情報は病院外には提供いたしておりませんが、プライバシー保護のもと、学会発表や論文投稿に得られた結果等は公表致します。

このような観察研究の対象となる患者様の中には既に治療や外来通院期間を終えられていたり、転居などで当院には通院していらっしゃらなかったり、またご不幸な結果を迎えてしまった患者様も含まれ、研究へのカルテの情報の提供につき、患者様1人、1人に説明しご同意を得る事は現実的には不可能です。

そこで、このコーナーのような形で研究内容を公開しております。もし、ご自身が研究の対象者に該当する可能性があり、研究への診療情報の調査を行ってほしくないなどのご意志や苦情等がございましたら、研究項目毎に「保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先」が記載されておりますのでお問い合わせください。

研究課題名

腫瘍随伴症候群を伴う婦人科悪性腫瘍に対する臨床研究

研究の意義・目的

近年、婦人科領域においても白血球増多症・血小板増多症・高カルシウム血症などの腫瘍随伴症候群を伴う悪性腫瘍について検討・報告されている。卵巣癌では血小板増多症を伴う症例で、子宮頸癌では白血球増多症を伴う症例で有意に予後が悪いことが報告されている (Stone RL et al. N Engl J Med 2012; Mabuchi S et al. J Natl Cancer Inst 2014)。しかしながら、これらの報告では臨床進行期や組織型などの詳細な臨床データは解析されておらず、腫瘍随伴症候群を形成するサイトカインなどの原因物質についても十分に解明されていない。

そこで本研究では、腫瘍随伴症候群を伴う婦人科悪性腫瘍患者と同症候群を伴わない患者で予後に違いがあるかを後方視的に検討する。腫瘍随伴症候群そのものの存在や程度などが新たな予後マーカーとなる可能性があり、本研究の成果は腫瘍随伴症候群を伴う婦人科悪性腫瘍に対する個別治療の手がかりとなりうる。

研究の方法

当院にて婦人科悪性腫瘍（子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌） に対して初回治療を行った症例で、2000年1月から2015年12月の15年間を症例の対象とする。

調査対象数：目標調査対象数は、全体で約1600例。

調査期間：（倫理審査委員会承認日） から2025年3月31日まで。

対象症例に対し以下の項目を調査する。

年齢などの患者背景、初診時・初回治療終了時・再発時の白血球数/血小板数/補正後カルシウム値、腫瘍マーカー値、臨床進行期、TNM分類、組織型、治療内容、予後（転帰、死亡の有無、死亡日もしくは最終生存確認日）など

研究代表者氏名

筑波大学附属病院・婦人周産期診療グループ・佐藤 豊実

保有する個人情報に関する利用目的

当院単一施設における後方視観察研究（上記研究）への参加

保有する個人情報の開示手続

筑波大学附属病院のホームページにある「お知らせ」の中の「筑波大学附属 病院の個人情報の取り扱いについて(PDF)」を参照。

保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先

筑波大学附属病院・婦人周産期診療グループ・中尾 砂理 TEL: 029-853-3073, FAX: 029-853-3072（産婦人科 医局 平日9:00-17:00）